

Mga kuwentong pambata mula sa Perez, Quezon

Ang Nagtatampong Dagat

「海が怒っている」

Aspiring Citizens for Community Empowerment, Inc. (ACCEI)

どうして海は、浜辺に暮らす人たちに怒りをあらわすようになったのでしょうか？
どうして、毎日海にでる漁師たちをよろこんで受け入れてくれなくなったのでしょうか。
カニや魚たちが遠いところに行ってしまったのは、海が怒っているから？

ケソン州ペレーズ町の子どもたちによる物語を通して、どのようにして浜辺が色とりどりのモノで埋め尽くされてしまったのか、見ていきましょう。



Aspiring Citizens for Community Empowerment, Inc. (ACCEI),
sa pakikipagtulungan sa RENGO

PAMBUNGAD NA MENSAHE

この本は、アクセスが実施する子ども教育プログラムの一環として制作され、フィリピンのケソン州ペレーズ町で出版したものです。

プログラムに参加した子どもたちの経験をモチーフとし、子どもの権利と、権利侵害についての意識を高めることを目的として、制作されました。

この本の基となったエピソードは、アクセスが子どもたちを対象に実施してきた補習授業で子どもたちが語ってくれたものです。絵を描いたり、文章を書いたり、他の人たちの前で自分の物語について発表したりといった活動を通して、子どもたちが家庭や学校や地域での経験について、子どもの権利と関連付けながら、感じ、考え、学べるよう働きかけました。

そうした活動の中で、子どもたちは、自らの幼少期の経験や、自分が直面したことのある問題などをふりかえることを通じて、この本の核となる物語を考え出しました。

それでは、ペレーズの子どもたちの体験に基づいた物語を見ていきましょう。



Ang Nagtatampong Dagat

Karapatang-ari © 2020 ng Aspiring Citizens for Community Empowerment, Inc. (ACCEI)

Reserbado ang lahat ng karapatan. Hindi maaaring kopyahin o gamitin ang anumang bahagi ng akdang ito, guhit man o teksto, sa anumang paraan, kahit na mimeograph o photocopy, nang walang nakasulat na pahintulot mula sa tagapaglathala.

Inilathala at ipinamamahagi ng
ASPIRING CITIZENS FOR COMMUNITY EMPOWERMENT, INC. (ACCEI)
4/F Tempus Place II, Makatarungan Road,
Central 4, Quezon City
1100 Philippines
Telepono: (+632) 3434-79-03
accessphils@yahoo.com

Pagsasalaysay at pagpapalnugot ni Shamaine Hernandez
Ilustrasyon at layout ni Aaron Moises Bonete

ISBN 978-621-96314-0-2

Inilimbag sa Pilipinas

Aspiring Citizens for Community Empowerment, Inc. (ACCEI),
sa pakikipagtulungan sa RENGO

昔々、まだ小船で海にでる人たちが
少なかったころのお話です。
漁師たちは、毎日、小船に乗って海に出ていました。
漁師たちは、家族が食べるのに十分な量の魚だけを
捕って暮らしていました。
小さな魚は逃がしてあげられるように、
網は、目の大きいものを使っていました。
漁師たちが海を大切にしていたおかげで、
海はいつも穏やかで楽しい場所でした。

時が経つにつれ、
村に暮らす人々の数は増えていきました。
海岸沿いに暮らすのは10家族だけだったのが、
5家族増え、10家族増え、
100家族へと増えていきました。



住民が増えていくにつれ、それぞれの家には、
いろんなものが増えていきました。
色とりどりのゴムでできたサンダルや、
シャンプーのボトル、カラフルなプラスチック製の
おもちゃなどです。
そうして人々はだんだん、
物の置き場に困るようになりました。



番犬が眠る床下に
サンダルを置かせてもらっちゃおうかな？

お母さんの台所に
おもちゃを隠させてもらうのも
ありかな？

空のペットボトルや、
使い切ったシャンプーの入れ物を
窓の外に捨てるのはどうかな？

次第に、海岸沿いまで
物が散らかってしまうようになりました。
波が打ち寄せるたび、
砂浜にあるプラスチックなどが
一緒に飲み込まれています。
とうとう、漁師が海で魚を捕る時の網にも、
いろんなビニール袋やプラスチック製のパックなどが
魚と一緒に引っかかるようになりました。

漁師たちは困りました。
昔は、網にたくさんの
海産物や魚がかかっていたのに、
今ではすっかり
少なくなりました。

そのため、漁師たちは、
ほとんど売るものが
なくなっていました。
お母さんたちも
心配しています。



おいしい海産物を食べて、元気だった子どもたちが
痩せてしまいました。
子どもたちが健康にすくすく育っていくためには、
栄養のある食事が必要なのに。

子どもたちは不思議に思いました。
海に浮かぶ、色とりどりのプラスチック製品は
どこから来たのだろう？
以前、海辺には、カニや貝殻が流れ着いてきていたのに、
どうして毎朝、海岸には、片っぼだけのサンダルや、
石鹸のビニール袋などばかり、流れついているんだろう？

このままずっと、海が荒れた状態が続くのが
恐くなった子どもたちは、
集まって話し合いをすることにしました。
“こんなのはおかしい”と、一人の子どもが
砂浜にあるゴミを見つめながら言いました。
“私たち、何かをしないと”と、続けてもう一人の子どもが
真剣に考えながら言いました。
清潔できれいな環境で暮らし育つ権利が
子どもにはあるはずなのに、と
子どもたちは、不安になりました。
そして、子どもたちは一生懸命、掃除し始めました。
ほかの友だちも呼んで、砂浜にあるゴミを片付けるのに
協力してもらいました。
そして、海の中のゴミも片付けられるように、
漁師の力を貸してほしいとお願いしました。

海が怒って、
カニやツブ貝などを
遠いところに
帰らせてしまったのかな？

そして、村の村長たちにも話をし、もっと多くの人たちが
ゴミの分別とリサイクルに取り組むように
協力をお願いしました。
そうして地域の人たちみんなが、
子どもたちが健康で安全に暮らせるように、
協力し合うようになっていきました。

みんな、もう一度、海がきれいになるように願っています。
海岸を埋め尽くすゴミのいやな臭いが
なくなっていくように。
木材やヤシ殻や割れたガラスでできたものの代わりに、
家の中でゴミとして蓄積されていたプラスチックを
再利用してモノを作るようになりました。

いつかまた海に笑顔がもどり、
漁師たちの網にもたくさんの魚が
かかるようになるはずです。

Pag-usapan natin!

1. この物語の主なメインピックは何でしたか？



2. この物語で描かれている村の様子を自分たちのコミュニティと比べてみると、どんな共通点や違いがありますか？



3. 子どもたちがあの状況で取った行動は、
どうして重要なのでしょうか？
もしも、行動しなかったらどうなっていたでしょうか？

4. もしもあなたがこの物語の登場人物の
一人なら、どのような行動、または解決策を
提案しますか？



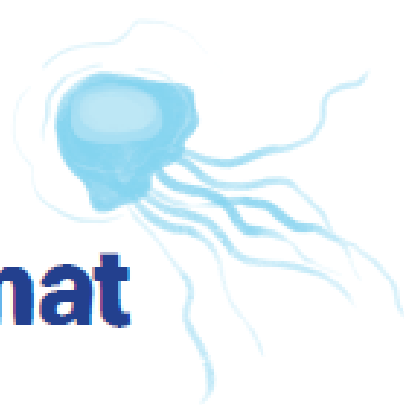
5. この物語では、どんな「子どもたちの権利」が
描かれていましたか？
実際の生活で、それらの権利の侵害を見たり、聴いたり、
体験したことがありますか？
また、それらの権利を主張したことがありますか？

CHILD'S RIGHTS

この物語は、「子どもにやさしい暮らしと健康」という視点で、
子どもの権利を扱っています。
国連が定めた、子どもの権利条約第6条と第24条によれば、
すべての子どもは、生きる権利・育つ権利をもっています。
そして、子どもは、健康でいられ、必要な医療や保健サービスを受
ける権利をもっています。
清潔な環境を保つために必要な物や、きれいな水、
そして栄養のある食事、子どもの権利に含まれます。
これらを実現し、維持するためには、政府の十分なサポートが必要
です。



Pasasalamat



謝 辞

アクセス・フィリピンの、ペレーズ事務所スタッフ一同より、子ども教育プログラムの活動に協力し参加してくれた保護者の皆さんや子どもたち、そして地域の青年会KAMALAYANの若者メンバーの皆さんに、感謝を申し上げます。

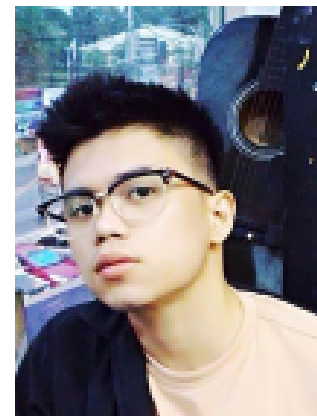
また、本作の制作に関わるプログラムを信頼し、協力してくださった、ペレーズ町役場の方々、村議員の皆さま、ペレーズ西小学校とペレーズ中央小学校の先生と校長先生たちにも感謝申し上げます。

そして、アクセス日本の継続的な支援に、また子どもの権利に関する本書を含む3冊の本の出版に助成をくださった「連合」に、感謝申し上げます。



文：シャーメイン・ヘルナンデス

シャ・ヘルナンデスは教員をしながら、フィリピン文学を研究。現在、アテネオ・デ・マニラ大学にて、教員として働きながら、院生として研究も継続。また、アンヴィル出版社でシニアエディターとして活躍し、現在はアダルナ・ハウスで「Láwas」のプロジェクトコーディネーターとしても活躍中。おばあちゃんになるまで、自分の好きな本を読み続けるのが、子どもの頃からの夢。



絵／デザイン：アーロン・モイセス・ボネテ

アーロン・ボネテは、LGBTQの権利擁護者で、自身もゲイであるアーティスト。現在、フィリピンのルソン島に位置する、ケソン州の州都ルセナ市に暮らす。マニユエル・S・エンヴェルガ大学の芸術学部にて、ビジュアルアートを学んだのち、5年間、様々な組織や出版社などでグラフィックデザイナーとイラストレーターとして才能を発揮してきた。

